



みまさかのくに

美作国建国1300年

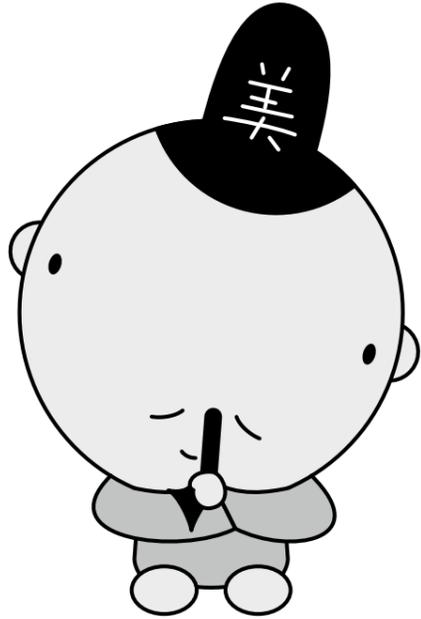
Vol.6 マスコットキャラクター (ゆるキャラ) 決定

岡美作国建国1300年記念事業実行委員会 ☎35-3434

ゆかりの地を巡り、歴史を勉強
巨人伝説・三歩太郎(ごも探検隊)
 8月10日、美作国に伝わる巨人伝説「三歩太郎」のゆかりの地を巡るバスツアーが行われました。参加した親子は三歩太郎の母親(大蛇)が身を隠した蛇淵の滝や三歩太郎の頭が祭られている三種神社、三歩太郎が残したとされる重ね岩などを巡り、地元の伝説に親しみを持った様子でした。



ゆるキャラの名前は“かたみくん”



かたみくんは初代美作国司である上毛野堅身をモチーフにしてデザインされたキャラクターです。

選考は、美術部などに所属する美作地域の高校生など17人が審査員を務め、全国から寄せられた327点の作品を「メッセージ性」「獨創性」「魅力」などを審査項目にして、行いました。

きらめく

津山人

下駄職人
 富田守治さん(一宮)



下駄の良さを
 知ってもらいたい

15歳から下駄を作り始め、下駄作りが天職だと言う富田さん。現在、手作りの下駄職人は県内で富田さんだけと言われています。下駄作りの作業中にお話をお伺いしました。

■下駄職人になつたきっかけは?

わたしは、江戸時代くらいから続く下駄職人の家に生まれました。幼少から下駄作りの道具に囲まれ、下駄を作る父や祖父の姿を見て育ちました。この環境から、自然に下駄職人になることを決めていました。

■長く続けられていますね

中学校を卒業してから、下駄作りの修業を兼ねて大阪や岡山の下駄屋にお世話になりました。

小さい頃から下駄作りの様子を見て、見様見まねで道具を使っていたので、修業時代は、他の人は3年の下積みをするところ、わたしは1年ほどで、下駄を作ることを許されました。

22歳で津山に戻り、下駄屋を開きました。それから10年ほど経った頃、徐々に下駄が売れなくなり、大工に転職したことがありました。しかし、下駄が夢に出てくることがあった、やっぱりわたしは下駄が好きなんだなあと感じました。60歳を過ぎて再び下駄作りを始め、77歳になった今でも作り続けています。

作った下駄が売れると、とてもうれしいですし、下駄を通じて、人と触れ合えることも楽しいです。お気に入りのお客さんを見つけたお客さんのうれしそうな顔を見ると、さらに下駄を作り続けたいという気持ちになります。

■手作り下駄の魅力は?

どんな足のサイズにも合わせることで、素材や鼻緒を選んで好みの下駄を作ることができるのが魅力ですね。桐など足に吸い付くような素材の気持ち良さもお薦めです。下駄は水虫や扁平足の予防になります。また、バランス感覚が養われて姿勢も良くなるなどの効果があるとも言われています。下駄が傷んだとしても、鼻緒を替えたり、下駄の裏を補強したりして、履き続けること

ができます。下駄には左右の区別がないので、時々左右を入れ替えることで、さらに長く使うことができますよ。

■今後の目標は?

まだまだ下駄作りを続けたいですね。今までにない下駄の形を考えることやインターネットでの販売など、新しいことにも挑戦し、さまざまな方法で下駄の良さを皆さんに伝えていきたいです。

そして、下駄にもたくさん種類があることや、日本古来の履物の文化を知ってもらい、できるだけ多くの人に下駄を履いてほしいですね。

商店街の活性化、そして津山の活性化の一助となればと、夏場にはソシオ一番街にもお店を出している富田さん。下駄を履く人が増えて、カラン・コロンという下駄の音がまちに響くといいですね。



▲お客さんに下駄の説明をする富田さん

★歴史街道ウォーキング大会

加者募集

出雲街道や因幡街道などにある旧跡を巡るウォーキング大会です

■富たたら製鉄コース

のどろ温泉露天風呂やあまご料理を味わいながら、富たたら遺跡などを巡ります。

とき 10月30日(火)午前9時20分～午後6時

■法然上人コース

誕生寺(久米南町)から菩提寺(奈義町)などを巡り、法然上人がたどった足跡を探ります。

とき 11月4日(日)午前8時45分～午後5時40分

■倉吉街道コース

紅葉の奥津溪を散策して自然薯を使った「鏡野いもじる」を味わいます。

とき 11月7日(水)午前9時20分～午後6時30分

■坪井・久世コース

坪井宿から真庭市目木の穴場スポットを巡ります。

とき 11月18日(日)午前8時30分～午後2時30分

■締め切り

11月9日(金)
 ※申し込み方法など詳しくは、お問い合わせください。

津山 あれこれ

お夏の伝説(阿波)

昔、阿波の深山に住む木地師のもとにお夏という、とても美しい一人娘がいました。

お夏は備前からきた木こりと将来一緒になることを誓い合いました。ある時、お夏の美しさが殿様の目にとまり、お城に上がるように言われました。お夏は木こりとの誓いを果たせぬことに心を痛め、谷川の深い淵に身を投げてしまいます。それから、夜な夜な、その淵から女のすすり泣くような声が聞こえるといわれるようになったそうです。

淵の上流にある木地師の墓地には、苔むした地蔵のつたお夏の墓があります。地蔵の首を抱いて寝ると美しい娘が生まれると噂になったので、多くの人びとが代わる代わる持ち帰るようになり、そして、いつしか首はなくなっていました。



▲首がない地蔵のつたお夏の墓